

表7 共同研究のための研究会・シンポジウム等の実施状況

年 度	シンポジウム		講演会・セミナー		研究会・ワークショップ		その他		合計	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
22	7	800	31	1,448	190	3,478	0	0	228	5,726
23	9	847	36	1,721	94	1,965	0	0	139	4,533
24	5	645	33	1,278	26	1,064	0	0	64	2,987
○参加人数の算定方法 研究会、シンポジウム等の参加実人数を加算（H24、23年度） 各研究会、シンポジウムの参加実人数に回数または開催日数を乗じた。（H22年度）										
主な研究会等の開催状況										
開催期間		形態（区分）		対象		研究会等名称		概要		参加人数
H22.7.12～7.13		シンポジウム		国際		International Workshop on Geodynamics and Disaster Mitigation of West Java		バンドンを含む西ジャワにおける地震・津波・火山噴火の総合的な研究成果の発表を行い、今後の方針に関して議論した。		90
H22.11.10～11.11		シンポジウム		国際		ERI International Symposium on Subduction systems: Structure, seismicity and geodynamics		日本島弧と他の世界的な沈み込みや地殻伸長に関する情報交換・議論を行い、新しい国際共同研究を構築することを目的として実施され、活発な議論が行われた。		85
H22.11.22～11.25		シンポジウム		国際		International Workshop on Multi-disciplinary Hazard Reduction from Earthquakes and Volcanoes in Indonesia		地球規模課題対応国際科学技術協力事業「インドネシアにおける地震火山の総合防災策」の研究成果報告会、及び野外巡検		108

H23.9.18-9.23	シンポジウム	国際	共同利用研究集会「Symposium on Underwater Technology 2011 and Workshop on Scientific Use of Submarine Cables & Related Technologies 2011 (海中工学と海底ケーブルの科学目的利用に関する国際ワークショップ)」	本研究集会は、海域における観測に関連するサイエンスを行なう研究者と、最先端の技術開発に取り組む技術者による発表が行なわれ、活発な議論を通じて極めて意義深い交流の場となった。	200
H23.8.20	シンポジウム	国内	東北地方太平洋沖地震緊急研究成果報告シンポジウム	平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震について、その時点で解明されている現象について、研究者相互に情報交換し、今後の研究の方向について議論した。	147
H23.9.8-9.9	シンポジウム	国内	共同利用研究集会「地震動の瞬時解析と直前予測」	緊急地震速報の現状と将来計画、震源・マグニチュード推定等の迅速化と精度向上等に関する議論がなされた。特に、東北地方太平洋沖地震の経験により得られた教訓、課題、対応策等に関する意見交換が行われ、今後の研究の発展、更には地震防災や減災に結びつくことが期待される。	90
H24.3.3-3.4	シンポジウム	国内	「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」平成23年度成果報告シンポジウム	地震研究所が中核となって全国の大学・研究機関が連携・協力して推進する「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」の平成23年度の研究成果についての発表を行い、今後の研究の方向について議論した。	490
H24.7.5-7.6	シンポジウム	国内	「地震及び火山噴火研究の将来構想シンポジウム」	社会が地震や火山噴火の研究に対して何を期待していると考えるか、その期待に応えていくため地震や火山現象の解明に向けてどのような研究を今後進めていくべきか、具体的にどのような研究が必要なのかについて議論を行った。	259
H25.1.9-1.12	研究会・ワークショップ	国内	共同利用研究集会(共催)「柿岡地磁気観測百年ー地球物理学に果たす役割ー」	気象庁柿岡地磁気観測所が百周年を迎えることをきっかけとして、CA研究グループはもとより、内外の地磁気永年変動、グローバル、超高層電磁気現象研究者にも参加を頂き、地球電磁気研究の来し方・行く末に関する活発な議論をかわした。柿岡にて集会を開催し、初日には観測所見学会、最終日には一般公演会を設けた。	137

H25.3.27-29	研究会・ワークショップ	国内	「スロー地震」合同研究集会(地震研共同利用研究集会「スロー地震の発生メカニズムを探る:測地・地震観測, データ処理, 実験, シミュレーション, モデル化から得られる情報の総合化と巨大地震との関連性の解明を目指して」, J-DESCフィジビリティ研究「ニュージーランド・ヒ克蘭ギ沈み込み帯のスロースリップ域掘削計画に向けたスロー地震のモニタリング研究」)	スロー地震の発生メカニズムを理解することを目的とし, 地震観測や測地観測に基づく検出手法開発・データ処理・カタログ構築・活動特性解析, 地質学的モデル化や実験, 各種理論モデルに基づく活動様式に関するシミュレーションなど, 幅広い分野から3日間に渡って総計39件の研究発表がなされ, 活発な議論を行った。	192
-------------	-------------	----	---	--	-----